

- 2017年・記録会は10月15日(日)HLG、PLGとも吉見公園です。
- 2017年・記録会は11月19日(日)HLG、PLGとも吉見公園です。

稲刈りも終わって、いよいよ秋のヒコーキシーズンです。行ってみるとまだ田んぼは水っぱいので長靴が必要ですが、走り回るとすぐ疲れる年齢になりました。早朝、田んぼの畦に座ってのコーヒーの香りは素晴らしいし、そこで食べるパンも美味い。更に半年ぶりでお目にかかる仲間と共にいるだけでもイイものですね。さて、今年残りのイベントは関東ではFF日本選手権と、その前日に開かれる小型機あさひ大会があります。私は今年から戦線を縮小し大型は止めたので、まずは中型ゴム動力機の練習を開始します。しかし、ゴム動力も10年以上やってなかったので段取りがあやしいし、ゴムがどこまで巻けるのかさっぱり解りません。ま・ぼちぼちと練習して一月後には飛ばせるようにならねば……。最近はとみに中型機の選手が減少して、淋しいので一先ずは数合わせの1人になりたい。しかし、本音は何とかフライオフに残って、次は……、等々ヒコーキは楽しいですね。

- |       |                                     |
|-------|-------------------------------------|
| 記録会報告 | ①②2017年8月HLG/PLG記録会報告               |
|       | ③④2017年9月HLG/PLG記録会報告、              |
|       | ⑤まったけ大会報告(HLGのみ)                    |
| お知らせ  | ⑥2017年FF小型機旭大会案内 ⑧平成29年FF日本選手権競技会案内 |
| FFサロン | お休み                                 |
| 雑談天国  | ⑨武装中立とは何か                           |
| ざっがき  | ⑩                                   |

## ◆2017年8月記録会報告(HLG/PLG)

### 8月HLG記録会報告

①……赤星、平尾

今年グリーンパークで3回目の記録会、この日はわりと涼しく風もなく、素晴らしいヒコーキ日和でした。グリーンパークはFFの東京のメッカなので、人が沢山集まるのが素晴らしい。しかも、この日は石井英夫氏まで顔を見せてくれました。お陰様で様々な人と楽しく語りあえました。この日はちびた号大会の田中杯争奪戦があり、田中氏提供の副賞の図書カード目当てに日頃飛ばさない人まで真剣に狙ってくるのです。競技終わり近くなると、勝てそうな選手達が粘って粘ってのサーマル読みとなります。後期高齢者は関係なしですが、この様な戦いを見るだけでもイイものですね。(平尾)

#### \* 赤星レポート

ランチャーズ8月記録会に参加してきました。8月は恒例のCHIBITA-GO大会です。少しだけ寝坊して、公園に着いたのは6時過ぎ。湿度は高いですが、曇天微風で先月よりもしのぎやすいです。

下草は昨日の豪雨でビショビショ。遠くに車を停めたので、長靴を持ってこれませんでした。予想通りすぐに靴下までビショビショ。グリーンパークは戦時中、中島飛行機の工場だったそうで、下にはたくさん瓦礫が埋まっているそうです。そのため水捌けが良いのですね。

今日は半分開き直りで、CHIBITAしか持って行きませんでした。濡れて翼が狂わないように、去年作った機体で練習開始。時間が経つに従って、多くの人が集まってきました。下草も徐々に乾いてきました。特にCHIBITA-GO大会は、普段あまり参加しない方もいらして、賑やかで和やかな雰囲気です。同じ形の機体がたくさん飛んでいて面白いですね。さて、記録会が始まると、いつものようにI村大師匠が先行します。中0さんがそれを追いかける展開。私は続けて投げミスして出遅れます。その後2つ続けてサーマルを読みきって、連続MAXをゲット。どうにか優勝戦線に復帰します。が、ここからはサーマルの出現率が落ちます。ここ！と思ったときに投げても、うまくサーマルに入りません。8投目を落としたりと、フルマークがなくなりました。しかし、あと2投MAXを取ると、ひとつ落としているI村大師匠をわずかな差でかわせます。力が入る9投目、ストリーマーの動きを慎重に観察して、今だ！！と投げたの

ですが、力み過ぎて、地面に叩きつけてなんと1秒。撃沈でございます。

優勝は先行したI村大師匠をさし切った、中0さん。おめでとうございます。あの高さと安定感は流石です。3位は最後に油断をしたのか、I村大師匠、2ヶ月連続優勝ならず。2位は途中まで「今年はダメだ～」なんて言っていたSG野さん。しっかり図書カードをGET、流石CHIBITAマスター。4位は私。まあ、上出来です。久しぶりに野球投げばかりでしたが、楽しいですね！

8月HLG記録 8月20日グリーンパーク 晴26度～風1～2m、40秒MAX5／10投、

NO	選手名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	FO1	FO2	合計
1	中禮 一彦	32	39	40	26	40	40	15	40	30	4	199			199
2	菅野 俊行	37	40	22	14	22	21	38	40	40	23	195			195
3	井村 真三	40	40	28	24	40	24	40	32	28	19	192			192
4	赤星 和芳	25	26	30	40	40	18	36	19	01	40	186			186
5	相沢 泰男	31	36	23	18	40	29	23	20	39	38	184			184
5	池田 昇	22	40	32	40	17	40	32	15	19	22	184			184
7	安倍 雅幸	29	33	37	30	40	21	23	22	18	13	169			169
8	石井 満	27	19	21	15	23	26	29	35	34	40	165			165
9	吉岡潤一郎	11	21	40	32	33	14	24	26	16	17	155			155
10	今関 健一	19	35	32	29	30	23	23	19	27	24	153			153
11	田中 晋	28	19	20	40	22	20	19	14	20	24	134			134
12	岡村 貞二	18	28	18	10	26	30	16	24	17	11	126			126
13	大八木重信	14	20	12	19	29	16	26	23	21	23	122			122
14	小林 茂夫	26	22	25	10	22	13	21	21	22	22	117			117
15	星野 聡	13	13	16	28	01	02	11	18	20	19	101			101
16	平尾 寿康	13	20	16	11	08	17	08	14	12	16	83			83

## 8月PLG記録会報告

②……工藤

今月のランチャーズ記録会は、CHIBITA-GO大会です。ランチャーズ唯一のワンメイクの記録会ですので、機体の製作と技術と気流読みが勝負を決めることとなります。梅雨明け宣言が出されてからは、毎日のように雨・風が続き、選手の皆さんは練習不足ではなかったでしょうか。武蔵野中央公園でのCHIBITA-GO大会は、地元のフライヤーに参加していただき、毎回多くの参加者がいますが、今回も17名の参加があり、賑やかに行うことができました。

天気予報では2メートルの風の予報でしたが、公園は無風から1メートル程度の絶好の条件ですので、今回も多数のフライオフ進出が見込まれます。前半5投目までで、吉本選手は絶好調の5連続MAX、続いて八木(博)選手4MAX、その他7選手が3MAXと好記録続出で、何人フライオフ進出者が出るのかという状況です。後半に入っても、各選手MAXが続出していますが、吉本選手は6投・6連続MAXでフライオフ進出。続いて八木(博)選手が7投目で6MAXを記録。続いて河田選手、原選手、八木(喜)選手が8投目で6MAXを記録。ここまで5選手がフライオフ進出決定。さらに、斎藤選手、木下選手、三辺選手、工藤の4選手が苦勞しながら10投目で6MAXを記録しフライオフ進出で、合計9選手が6MAXという好記録の大会となりました。フライオフは、90秒MAX 2投の勝負として開始しました。各選手とも気流読みをしているようですが、1投目は吉本選手が52秒、原選手が51秒を記録し、勝負の2投目です。HLGではデサーマル読み(?)の名手・原選手が見事に気流を読みきり、サーマルに乗せ65秒でランチャーズ初優勝。念願のランチャーズカップを獲得しました。おめでとうございます。工藤

8月PLG記録 8月20日武蔵野中央公園 くもり 風0～1m 40秒MAX 6/10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	1 FO	総計
5	八木 博典	40	40	40	16	40	40	40	—	—	—	240	45/30	285
6	三辺 雄司	35	40	29	29	40	40	40	40	38	40	240	34/39	279
7	木下 龍三	40	33	25	39	40	34	40	40	40	40	240	38/21	278

8	河田 健	23	33	40	40	40	40	40	40	—	—	240	34/37	277
9	斎藤 勝夫	30	40	36	40	40	18	40	35	40	40	240	27/30	270
10	勝山 彊	40	32	40	40	37	40	33	30	35	22	232		232
11	岡田 光正	40	29	40	40	26	28	31	36	29	40	227		227
12	松岡 恒夫	18	15	26	14	27	26	20	40	25	30	174		174
13	河合 光雄	17	12	28	20	33	38	17	26	13	15	162		162
13	栗原 宗之	20	27	27	25	18	28	27	28	16	24	162		162
15	小林 雅	26	20	13	14	21	28	24	12	35	25	159		159
16	駒崎 勝	27	20	13	11	32	19	6	36	16	12	150		150
17	間島 峰男	12	22	32	21	21	18	18	23	14	9	137		137

FO… 90 秒MAX 2投

## ◆2017年9月記録会報告(HLG/PLG)

### 9月HLG記録会報告

③……赤星、平尾、

今年4回目のグリーンパーク記録会で、さすがに9月後半にもなると涼しく過ごしやすかったです。

この日、気象条件最高で風上の運動広場の人も少なく飛ばしやすい環境の中、馬鹿サーマルもなくほどほどの気流で、機体回収も楽で白熱した競技になりました。高度Aクラスの選手は楽々とマックスが出るはずですが、そうは行かないところが小型屋外型フリーフライトの面白い所です。Aクラスでは驚異的な高度を取る若手も、Bクラス小さいので投げにくいらしく余り上がりません。その為、野球投げの選手でも振り投げとさほど高度が変わらず、勝つチャンスがあります。

HLGをグリーンパークで飛ばす場合、フワフワ滑空はダメです。風上の建物や周囲の樹木で気流が乱されて、叩かれてストンと落ちる危険があります。ですら迎角の少ないHLGではヤヤ突っ込み気味の滑空が正解なのです。当然ながら上反角多め、テールボリューム多めになります。この辺りが広い吉見で飛ばす機体とだいぶ違うのです。それともう1つ、余り樹の側で飛ばすのは気流の吹き下ろし、吹き上がりがあるので止めた方がイイ。要するに、グリーンパーク独特の気流に翻弄されない様な飛ばし方をすることが肝心なのです。8月記録会用にちびた号を選んだのも、この当たりの配慮があったのです。

これだから小型フリーフライトは面白いのです。(平尾)

### 1. 赤星レポート

さて、グリーンパークに着くと、既に記録会開始30分前。急いで準備しますが、こんなにろくに練習もせず記録会に臨むのは、初めてかも？ 記録会が始まるとONYACANさんと、HR尾さんが好スタート。

私は31秒とまあ、いつも通り。2投目でどうにかMAXをとりますが、その後は20秒台を連発。いつも通り全く、鳴かず飛ばずのBサイズでした。Bサイズは本当にどうにかしなくちゃなあ。

残ったのは鬼のONYACANさん、重鎮HR尾さん、野球投げの名手中0さんの3人が5MAXでフライオフ。HR尾さんの5MAXはお見事でした。フライオフはONYACANさんと、中0さんが60秒MAXをクリアー。2回目でONYACANさんに軍配が上がりました。ONYACANさん、強し。おめでとうございます。

9月HLG記録 9月24日グリーンパーク、晴25度～、風1～2m、40秒マックス5/10投

NO	選手名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	F1	F2	計
1	斎藤 浩	31	40	32	40	40	40	33	40			200	90	53	343
2	中禮 一彦	22	28	40	40	37	31	40	40	31	40	200	90	48	338
3	平尾 寿康	40	40	22	40	40	20	31	26	17	40	200	30		230
4	安倍 雅幸	30	24	40	40	34	27	36	33	39	40	195			195
4	森口健太郎	24	27	40	38	30	40	25	39	34	38	195			195
6	石井 満	23	26	40	23	40	40	30	31	35	39	194			194
7	池田 昇	23	33	23	25	40	34	31	20	36	40	183			183
8	井村 真三	40	23	26	32	25	32	26	36	40	18	180			180
9	吉岡潤一郎	24	21	21	40	18	30	20	40	38	20	172			172

10	赤星 和芳	31	08	40	12	23	37	28	22	29	23	165	165
11	斉藤 勝夫	19	32	25	17	21	20	25	38	32	20	152	152
12	今村 健一	25	27	14	23	22	40	25	21	25	23	142	142
13	星野 聡	06	23	31	27	34	26	18	18	21	17	141	141
14	相沢 泰男	35	24	20	05	24	01	21	21	15	36	140	140

### 9月PLG記録会報告

④……工藤

台風のため1週遅れでランチャーズ記録会を行いました。くもりから晴れの天気で風もなく、記録会日和の気象状況です。今回も多くフライオフ進出者が出るのではないかと思います、いつものように40秒MAX、10投6採用で行います。記録会開始から木下選手が4連続MAX、八木(博)選手も3連続MAXで好調な滑り出しと思っていると、大江選手と8月のCHIBITA-GO大会優勝の原選手は1投目でMAXを記録できなかったものの、その後6連続MAXで早くもフライオフ進出決定です。また、フライオフ常連の木下選手、八木(喜)選手、八木(博)選手は8投目で6MAXを記録。三辺選手は前半調整にてこずりながらMAXを連ね、最後の3投を3連続MAXで10投目に6MAXを記録しました。

フライオフ進出決定者6名と、今月も多人数でのフライオフとなりました。その他の選手ですが、今回はPLGに出場したハンドランチの石井(満)選手、尾羽林選手、工藤は惜しくも5MAX止まり。久しぶりにお元気な姿を見せていただいた倉田選手、水車選手が4MAX、河田選手、大堰選手は気流に恵まれず3MAX止まりでした。

フライオフは80秒MAX 2投で行い、1投目で大江選手が65秒とリード。2投目は気流があまりよくなく、各選手記録が伸びない中で、前回優勝の原選手は全く打ち上げる気配がなく、本気の気流読みの態勢に入りました。結果は見事にサーマルをゲットし80秒をクリアする大フライトで連続優勝。おめでとうございます。これまでランチャーズカップに縁がなかった原選手は、8月優勝をきっかけに覚醒したようです。早く吉見に戻り、HLGに復帰していただきたいと思います。工藤

9月PL記録 9月24日(日) 武蔵野中央公園 晴れ 風 1m 40秒MAX 6/10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	FO	総計
1	原 一博	27	40	40	40	40	40	40	-	-	-	240	37/80	320
2	大江 賢	35	40	40	40	40	40	40	-	-	-	240	65/55	305
3	三辺 雄司	29	37	40	40	35	40	37	40	40	40	240	45/63	303
4	八木 博典	40	40	40	16	19	40	40	40	-	-	240	35/49	289
5	木下 龍三	40	40	40	40	36	38	40	40			240	48/34	288
6	八木喜久江	36	40	40	40	37	40	40	40			240	42/40	282
7	工藤 陽久	30	40	40	34	40	38	27	40	34	40	238		238
8	水車 進	39	40	40	35	38	34	35	23	40	40	237		237
9	尾羽林邦夫	18	40	40	40	23	40	34	40	32	32	234		234
9	大堰富二年	10	32	39	37	37	38	40	37	40	40	234		234
11	石井 満	28	20	19	27	19	40	40	40	40	40	228		228
12	河田 健	25	26	35	32	34	30	40	40	40	37	226		226
13	倉田 泰蔵	10	13	16	28	33	40	40	40	13	40	221		221

FO… 80秒MAX 2投

### ◆2017年まったけ大会報告(HLGのみ)

⑤……赤星

日曜日は鈴鹿田んぼで中部FF秋季大会、通称まったけ大会に参加しました。例年の通り会場入り荷物をおろしてピットを作ります。予報より少し風があるようですが、皆さん、調整に余念がありません。

競技が始まると、ばばやんさんが早々にMAXを重ねています。私も1投目は信頼の1番機で、ゆうゆうMAX、さい先の良い出だしです。2投目、いつものようにランチするのですが、捻れたようなおかしい上昇から急降下、電線に接触して墜落します。隠れていたクラックが、投げに耐えられずに顔を出したの

か？いずれにしろ1番機が戦線を離脱、いきなり大ピンチです。2番機候補はまだ調整が未了、3、4番機を組み立てて、どちらを飛ばそうか？3投目にチョイスしたのは4番機。これが判断ミス。風に正対して、うまく旋回できないままズブズブと高度を落としてしまい、58秒。4投目は3番機に持ちかえてようやくMAX。しかし、5、6投目は続けざまに落としてしまい、追い込まれていきます。その頃やまめさんと、MGさんも絶不調。やまめさんは機体を壊したり、投げのバランスを崩したり、忙しそう。踏み込んだ足を滑らせていたときは、怪我していないかヒヤッとしました。MGさんは機体をいたわり過ぎて、フルランチ出来ていないそうです。毎度、後半の追い上げは凄まじいのですが、残念ながらフライオフにはたどり着けず。Y岡さんはわずか1秒落ち、これは悔しい。

ばばやんさんは、あっさりと5投で5MAXとって、映像製作に入っています。ジャン・ターナーさんは、AとBを5投ずつ交互に投げて、両方ともしっかり記録を残しています。お二人とも流石です。私はその後も3番機で挑戦し3つ続けてMAXゲット、9投目でようやく、ヒヤヒヤもののフライオフ進出でした。

あとは残り時間を目一杯使ってBを投げまくり。苦手のBは气流読みはそこそこに、拾っては投げ、拾っては投げ。それでも前半はサーマルが時々手を差し伸べてくれました。しかし、後半はいつもの実力通り。前半のサーマルのおこぼれのお陰で、なんと2位を頂きました。

さて、フライオフは、ばばやんさんと、ジャン・ターナーさん、私の3人と相成りました。風向きの関係で東よりに発航位置をとります。ところが、風はどんどん弱くなり、ほとんどサーマルの気配が感じられません。焦れたのか、サーマルを諦めたのか、ジャンさんが最初にランチ。浮きの良い機体のはずですが、やはりサーマルは全くなしで51秒。タイムリミットの2分前に私がランチ。結局サーマルは、助けに来てくれませんでした。やや左に巻き込んだ機体は十分な高度が得られずに53秒。この3番機は胴体パイプが、ウィンドラブ製のテーパー・ハードで、重さの割りに剛性が不足しています。力が入るフライオフでパイプが負けてしまったように思います。優勝したのは最後に投げた、ばばやんさん。全く气流の助けのないなかで、68秒。高さや安定感などは他を寄せ付けませんね。いつか、ONYACANさんとのガチンコ勝負を見てみたい。おめでとうございます！！（赤星氏のブログより、勝手にヤヤ短縮）

追記：今年から遠距離大会は諦めました。行きはイイのですが帰りは身体はガタガタで、駅からのタッタ7分がガン箱抱えての歩きが凄く辛いのです。更に、この年でHLGでもアルマイと世間が言うし・・・。

HLGの鬼、伊東哲男氏は学校が忙しくて、残念ながら当分ヒコーキはお休みのようです。それと今回は掛山さんが泣かず飛ばすは淋しいですね。年かな・・・、イヤイヤ、そんな事はないでしょう・・・。（平尾）

HLG-Aの記録 10月1日 60秒マックス 5/10投、FOは90秒マックス															
NO	選手名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	F1	F2	計
1	安野 裕一	60	60	60	60	60						300	68	-	368
2	赤星 和芳	60	15	58	60	42	32	60	60	60	-	300	53		353
3	田中 健治	60	33	60	49	60	60	60				300	51		351
4	吉岡潤一郎	59	60	43	60	55	56	60	60	37	22	299			299
5	森口健太郎	56	43	48	36	60	50	60	60	45	60	296			296
6	掛山 吉行	36	60	60	45	60	44	60	60	49	48	290			290
7	石井 満	05	06	10	09	08	53	60	53	0	60	236			236
8	斉藤 勝夫	49	14	47	60	32	34	30	22	23	27	222			222

HLG-B記録 10月1日 60秒マックス 5/10投															
NO	選手名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	F1	F2	計
1	田中 健治	60	32	60	37	32	60	60	49	38	39	289			289
2	赤星 和芳	33	59	49	41	60	38	37	37	33	28	247			247
3	園田 宏樹	26	22	32	29	60	60	60	18	40	22	226			226
4	石井 満	08	30	26	32	28	60	55	34	32	36	217			217
5	森口健太郎	21	60	32	18	30	27	35	37	44	31	208			208
6	安野 裕一	42	48	29	35	41	33					204			204
7	吉岡潤一郎	18	28	34	24	60	23	23	31	26	28	181			181

8	掛山 吉行	32	14	23	60	23	23	24	25	23	28	169	169
9	斉藤 勝夫	22	21	44	60	13	19	21	04	14	16	168	168

## お知らせ

### ■ 平成29年年度模型飛行機フリーライト小型機大会

⑥

期日、会場	平成29年11月3日(金)、雨天中止、会場、千葉県旭市(通称干潟)
種目	HLG-A、B、F1G、F1H、F1J、LP、電動FF、但し参加者が3名に満たない時混合。
主催、委員長	フリーライト委員会、大会委員長FF委員長 和田光信
競技委員長他	FF委員会委嘱 和田光信、競技役員 FF委員会委嘱 委員
参加資格	当日有効の模型飛行士登録者
申込方法	平成29年11月3日(金)AM7:00～7:30 競技会場、肥料小屋前にて受付、
参加費	2,000円(1種目、2種目以上は3,000円)、中学生以下無料
規定・競技方法	FAIスポーツ規定に準拠、各種目5Rの競技を行い、合計タイムで順位を決定する。同タイムの時は決勝飛行。電動機F1Sモーターラン10秒、F1Q7秒としMAX2分。HLGはMAX60秒の飛行を1R2回行い、飛行時間の長い方を公式飛行とする。LPはMAX1分とする。LPの特別規則規定15に基づき規則を付加する。 ①動力ゴム5g以下、②折畳可変機構のない空転プロペラ使用。状況により最大計測時間、モーターランを変更する事がある。
競技時間等	7時30分、開会式。8時00分、ラウンド制の競技開始。13時30分決勝飛行予定Rの時間等の詳細は競技会当日発表する。
保安・損害賠償	人畜土地建物その他に競技他により損害を与え賠償が必要な場合は、当該者が全額を負担する。
機体検査	随時検査を行う。検査で不合格の場合には、記録は全て無効。
選手の責務	選手は計時員の補助員または計時員として計時に協力すること。
連絡先	各団体のFF委員又はFF委員会事務局 田久保ff@iinkai.ss.tt.ts.st

### ■ 平成29年年度フリーライト国際級日本選手権要項

⑦

主催	日本模型航空連盟 公認日本航空協会
期日、会場	平成29年11月3日(金)、4日(土)、5日(日)、会場 千葉県旭市
種目、規定	フリーライト F1A、F1B、F1C、FAIスポーツ規定に準拠
参加資格	日本国籍を有する選手権期間中有効の模型飛行士登録者
委員長・競技委員長	日本模型航空連盟会長 安田邦男、競技委員長 FF委員長 和田光信、
競技副委員長	F1A FF委員 河合良、F1B FF委員、谷塚正実、F1C FF委員、西澤実
陪審員、役員	日本模型航空連盟 金川茂 競技役員 日本模型航空連盟会員
申込方法	参加申込書(郵便振替)に(種目、氏名、住所、電話番号、模型飛行士NOと有効期限、宿泊同伴者の有無)を記入し、期日までに参加費を振り込む。専用振替用紙がない時は、振替用紙を使う。納入した参加費は理由の如何を問わず返却しない。 振替口座番号 0160-6-59119 加入者名 日本模型航空連盟
締切、参加費	平成29年9月8日(金)(当日消印有効)、参加費 22,000円(1種目)
宿泊	大会役員以外宿泊場所は自由。但し11月3日のミーティングに出席すること。
幹旋宿舎	いいおか潮騒ホテル、TEL 0479-85-6677。申込書に宿舎幹旋の要否を記載する(1泊に付11月3日、4日共(8700円)2泊は申込用紙に「宿泊費17,400円」を記載する。宿泊申込後のキャンセルは不可。選手と同様に同伴者の宿泊を幹旋する。(1泊8,700円)。同伴者を含めた合計金額を記載すること。
食事	幹旋する宿舎の夕食は宿泊費に含む(朝、昼食は含まない)。

参加受理	参加申込みした会員には受理書を送付する。選手は所定の時間内に本部に参加受理書、機体仕様書を提出する。
受 付	11月3日15時～17時に宿舎本部に必要書類を提出する。時間内に到着出来ない時は予め連絡する。また、機体検査等を希望する選手は受付時にその旨申し出る。
機体検査	原則として競技前の機体検査は行わない。但し、F1Aの曳航索、F1Bのゴム重量、F1Cは機体重量の検査を行うことがある。希望した場合、機体検査を行う。競技中、抜取検査を行う場合がある。検査で不合格の時、以前の記録は全て無効となる。
選手の責務	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 選手は他種目の役員となること。出来ない時は代理人を立て、その旨参加申込書に記入する。役員業務を怠った場合、及び、本要綱に正当な理由なく違反した場合、当該選手の競技記録の一部または全部を取消すことがある。</li> <li>2. 異議申し立ては競技委員長に文書で行う。但し、競技中に計時員や役員の決定への異議、競技中に発生した損失や不法行為に対する異議で、速やかな処理が必要な場合は、口頭で競技委員長に行うことが出来る。全ての異議には供託金3万円を添えること。供託金は異議が認められた場合返却される。</li> <li>3. 機体回収に4輪自動車の使用は禁止。使用した場合は当該ラウンドの記録を抹消する。オートバイ使用時にはヘルメット着用等道交法に基づき運用する。</li> </ol>
競技方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 競技は2016年有効のFAIスポーツ規定に準拠した公式飛行と決勝飛行を行い、選手権者及び順位を決定する。天候等の状況により競技の延期、中止、MAXタイムの変更をする事がある。その場合予定時間の30分前までに決定する。</li> <li>2. 競技を開始した場合は原則として当日中に競技を終了させる。</li> <li>3. フライオフのピットは抽選により決定する。</li> </ol>
ラウンド	1ラウンド 7:30 ～ 8:25    2ラウンド 8:30 ～ 9:25    3ラウンド 9:30 ～ 10:25 4 ラウンド 10:30 ～ 11:25    5ラウンド 11:30 ～ 12:25 フライオフ(1) 13:30 ～ 13:40    フライオフ(2) 14:30 ～ 14:40
日 程	11月3日受付15:00、開会式17:00、夕食:18:00、11月4日F1B競技7:30～ 11月5日 F1A, F1C競技:7:30～ 閉会式:15:30～
損害賠償	人畜、土地、建物その他の物件に対し競技その他により損害を与え賠償が必要な場合は、当該選手が全額を負担する。
世界選手権候補	平成28年度29年度の日本選手権の特点を合計し、上位より順番に次回世界選手権日本チームの選手となる資格が与えられる。1位-12点、2位-9点、3位-7点、4位-6点、5位-5点、6位-4点、7位-3点、8位-2点、9位-1点
連絡先	各団体のFF事務局、又はFF委員会事務局 田久保潤 090-3227-1744 FF委員長 和田光信 090-3136-4276

**FF文化サロン**

お休みです。

**雑談天国**

## ★ 平和主義的非武装と中立主義を考える

⑨企画編集短縮 平尾

日本の近隣国である北鮮や中国の行動が世界的に批判を浴びている現在、日本も国民が揃って現実的な平和を守る方法をまとめ上げる時期にきていると考えます。そこでこの問題の取っ付きとして、最初に平和主義に付いて考えてみたい。平和主義の行き着く先は、国家方針としては「非武装中立国」であろう。非武装中立とは、通常、平時を含めて自衛戦争のための常備軍も廃止し、特定の軍事同盟にも加盟しないものとされる場合が多い。この非武装中立の思想は、ガンジー、キング牧師などの非暴力主義、あるいは国際社会への信頼などに基づき、それを国家レベルで平時のみならず戦時にも拡大したものと云える。非武装中立政策は世界的には、ヨーロッパの小国などで採用された例があるが、一時的

または限定的にとどまっている。日本は第二次世界大戦の反省と、戦後の日本国憲法第9条や東西冷戦の関連もあって、日本社会党などにより主張された事がある。なお非武装中立とは国家レベルの政策であり、必ずしも軍備や自衛戦争を全て否定するものとは限らない。国際連合憲章では、国際の平和と安全を維持または回復するために、常設および非常設の国連軍を認めており、仮に侵攻を受けた場合に非暴力の抵抗を続けながら国連軍の救援を待つ事が考えられるが、2017年現在でも常設の国連軍は組織された事が無い。更に国連軍は安保理の常任理事国が拒否権を発動すれば行動できないし、最悪の場合、常任理事国自身や常任理事国が支持する国から侵攻を受けた場合には、国連軍が否決されてどこも守ってくれなくなる公算が大で、事実上全く期待できない。

軍備の有無にかかわらず国家の自衛権は国際法上存在しているため、侵攻を受けた時点以後に、民兵や義勇軍を組織することは考えられる。この場合、急造の武装組織の近代戦での有効性については疑問であり、日本国憲法においても何ら規定されておらず、捕虜などの戦時国際法上の保護も課題となる。非武装中立論はヨーロッパでも社会防衛論として、軍事による国土防衛を放棄し、自国が外国軍隊によって占領されたとしても、他の手段(デモ、座り込み、ボイコット、非協力等)によって他国からの領土支配を拒絶するとする政策論が存在する。パチカンは、ラテラノ条約によって国家としてのパチカン市国が成立し、対外的に永世中立を宣言した後は非武装中立を行っていると言える。スイス傭兵を抱えてはいるがあくまで儀礼的なものであり、唯一国境を接するイタリアとの関係も良好である。しかしローマ教皇のような特別な権威を持つという性質を、他の国が模倣することは極めて困難である。太平洋にはツバルやバヌアツといった非武装で、非同盟政策を掲げる国はあるが、いかなる紛争に対しても中立を宣言しているわけではない。また、武装中立もスイスが唯一成功していると考えられているが、調べて見るとスイスというの特殊な位置と地形、その上に千年にわたって育ててきて政治的国民的努力があってこそ成り立っているの、事実上の国境を知らない島国の日本人には実現不可能であろう。

## 1. 非武装中立

まず中立国が守らねばならない義務が戦時国際法で定められている。中立国は戦争に参加してはならず、また交戦当事国のいずれにも援助を行ってはならず、平等に接しなければならない義務を負う。

その義務は、次の3種に分類される。

1. 回避の義務 中立国は直接、間接を問わず交戦当事国に援助を行わない義務を負う。
2. 防止の義務 中立国は自国の領域を交戦国に利用させない義務を負う。
3. 黙認の義務 中立国は交戦国が行う戦争遂行の過程において、ある一定の範囲で不利益を被っても黙認する義務がある。この点について外交的保護権を行使することはできない。

これらの義務を果たすには「わが国は中立政策をとります」と宣言するだけではダメです。特に「交戦国に自国の領域を利用させない」という義務を果たすには一定の実力が必要です。黙認義務の方はともかく、公平義務の方は、ある程度の実力が無いと果たせません。交戦国の一方が、「お前の国の港を自由に使わせろ、さもなければ武力占領する」等と言い出したときに、それを跳ね返すのは実力が無いと困難ですから、ある程度の力が必要なのですが、非武装中立を宣言した国が、どこまでこれらを守っていたのでしょうか。非武装中立宣言によって戦争の被害を完全に免れえる訳ではないのです。ルクセンブルクは1867年の建国以来の非武装政策の永世中立国であり、現在でも中立国であると規定している。しかし、第一次、二次世界大戦ではドイツはルクセンブルグ、ベルギーの中立を守るためと称して、フランスへの侵攻ルートを確保するため、両国の中立を一方的に侵犯して両国を武力占領した。このためルクセンブルクは中立国ではあるものの、第二次世界大戦後の1949年にNATOに加盟し徴兵制度を採用して、永世中立および非武装政策を事実上放棄した。

明確に非武装中立を宣言した国に、コスタリカが挙げられる。1983年に永世非武装中立をルイス・アルベルト・モンヘ大統領が宣言しているが、コスタリカは常備軍の設置を禁止しているだけで、非常事態には徴兵制を敷き軍隊を組織することができる。コスタリカ共和国憲法第12条には「大陸間協定により若しくは国防のためにのみ、軍隊を組織することができる」としている。であるから国家警備隊及び地方警備隊が重火器等を保持し、隣国ニカラグアの軍事費の三倍(2005年データ)を得ているし、米軍のグリーンベレーにより軍事訓練を受けていたこともあるなど、国防軍的要素のある武装組織となっており、純粋な非武装とは呼びがたい。また中立という面ではアメリカ合衆国の安全保障に依存しており、米州機構のメンバーでもあり、1965年のドミニカ内戦の際には米州平和維持軍の一員としてドミニカ共和



国に軍隊と武装警察を派兵したことがある。イラク戦争においても有志連合の支援国となっている。

2010年に議会は、米軍のコスタリカ国内における行動の自由と許可を与えており、46の軍艦、200の戦闘機とヘリコプター、7000人の海兵隊員の派兵を受け入れることを賛成可決で決定している。このような状況なので、国際的には中立国として認められていない。

## 2. 武装中立

自国を他のいかなる体制、組織、思想からも一線を画し距離を置くことを中立という。これは単なる日和見主義とは違うものとされる。他国、他の組織等からの圧力を排除して中立を保つために必要であるとして、相当程度の軍事力を保持する。非武装中立論よりも現実的な考え方として認識されている。

代表的な例としてスイス連邦があげられる。第二次世界大戦中においても中立を維持するため、連合国、枢軸国どちらにも与せず、領空侵犯してくる軍用機に対しては、陣営、目的を問わず迎撃する措置を執った。軍需産業という面では、過去にはスイス国内のシグ社が銃器の製造を手掛けていたが、永世中立を掲げる以上、他国に武器を売ればそれは武力供与という形で他国を手助けした事になる為、ドイツの子会社ザウエル&ゾーンに製造と販売を行わせる事で収益を得るという手順を取っていた。なお、スイスの場合、1815年のウィーン会議によって永世中立国として周辺国等から承認されており、同様の武装中立国であっても、永世中立国とその他の中立国との定義は異なる。

スウェーデンもナポレオン戦争以後、この方針を採っていた。しかし冷戦が終了し、欧州連合に加盟した後は、事実上、中立の方針を放棄している。なおスウェーデンは、21世紀まで200年の中立を貫徹してきたと言われているが、正確ではない。ナポレオン戦争終結直前にはデンマーク＝ノルウェーとの交戦があり、またクリミア戦争にも参戦の計画があったからである。それまでは単に中立主義国であったのである。スウェーデンが国策として武装中立に乗り出したのは20世紀に入ってからで、それまでノルウェーと同君連合を組んでいたが、1905年に解消された。第一次世界大戦を前にして列強間の対立が激しくなったことで、スウェーデンは国防の増強に乗り出した。1914年、北欧三国は、中立の維持と協力を合意し合うことで中立を維持した。第二次世界大戦前夜では北欧三国に加えフィンランドもまた、中立政策を北欧諸国と交わしたが、第二次世界大戦で中立を維持できたのはスウェーデンだけだった。

スウェーデンがより重武装中立をとったのが冷戦期であった。対ソ関係は元より、1960年代にはベトナム戦争を巡って対米関係も悪化した。さらに中立を信用しないソビエト連邦からも度々侵犯事件を起こされていた。かかる背景において、スウェーデンは重武装政策を推進したのである。また、ソビエト連邦が西欧諸国に対し宣戦布告を行った場合、スウェーデンも西側に立ってソ連と開戦する密約をNATOと結んでいた事が冷戦終結後に明らかになっている。

軍事的な中立を保つために両国とも兵器の多くを自国で生産し、一時は独自の核抑止力確保を目指して核開発を行っていた。ただし、両国とも核兵器の完成に至る以前に開発を放棄し、スウェーデンは核兵器廃絶の立場に転じている。冷戦終結後のスウェーデンは大きな転機を迎えており、軍需産業を維持しつつも、軍の規模を縮小し、また、他国との軍事的協調関係を構築するようになった。スウェーデンの武装中立政策は、時代と国際情勢によるものであったと言えるが、中立政策もまた、国際情勢とその条件下にあったと言える。

## 3. 民間防衛

民間防衛とは、武力紛争等の緊急事態において市民によって国民の生命及び基礎的施設や公共施設、産業などの財産を守り、速やかな救助、復旧によって被害を最小化することを主目的とする諸活動をいう。文民保護の機能もある。各国の民間防衛について調べて見た。

### ① スイス

徹底的な武装中立を志すスイスでは、1969年(チェコ動乱の翌年)に、当時の冷戦の高まりを受け、スイス政府がタイトルそのままの冊子『民間防衛』を、各家庭に260万部発行し無償で配布した歴史がある。この冊子はスイスの国防意識の高さを如実に表すエピソードの一つとして、非常に有名である。

発行元はスイス国民保護庁で、非常に重厚な内容であり、主として戦争の危機に際して必要な準備や心構え等について詳しく解説されている。食料品、燃料の配給統制、食料の貯蔵に始まり、民間の自衛・防災組織の構築、敵国の攻撃によって起こる被害への対処法、核兵器や化学兵器への対策や実際にそれらが使用された際の行動、果ては敵国のプロパガンダやスパイに対する対策、万が一敵国に占領された場合のレジスタンス活動の心得など、有形無形の危機が仔細に渡って解説されている。

日本でもこの冊子は何度か発売されており、スイス本国で配布された直後の1970年、阪神・淡路大震災後の1995年、そして極東における有事問題の関心が高った2003年には新装版が、それぞれ原書房から発売され、2005年現在までに日本国内で累計 15 万部以上が発行されている。

現在日本国内で市販されているスイス政府版『民間防衛』は、1980年代までの冷戦に基づいた本であり、現在のスイス国内で同書が使われることはない。スイス政府にとっては過去のマニュアル本であり、改訂する予定もなければ再び頒布をする予定も現在のところ無いと言う。しかし、日本で役に立つのであれば良いことだと思うと、スイス側からのコメントが紹介されている。

しかし、スイスに避難マニュアルはない。事前に国民へ配布もないし、その必要もない。スイス政府では有事の際にはサイレンで警報を流すが、その内容その他の事柄は電話帳の巻末に記載されている。

スイス国民はそれらに沿って行動し、追加事項は州や連邦から伝達される事になっている。民間防衛に関しては、冷戦の際は地理的条件から核戦争に巻き込まれる危険もあり、核シェルター等を法制化し整備している。ヨーロッパにおける現在の環境を考慮すると比較的戦争の可能性がない。したがって、災害の防止などが主眼におかれている。

## ② イスラエル

周囲を敵対国に囲まれているイスラエルでは『イスラエルの民間人に対する脅威とイスラエルの民間防衛措置』と題して敵国のミサイル攻撃に備えて伏せたり、遮蔽物に隠れて身を守る訓練を行って非常時に慌て無いよう、普段からイスラエル軍と共に防衛措置を国民がしている。テルアビブの高速道路の運転手らは、突然のミサイル攻撃から避難するために、警報システムのサイレンアラート時には車から降りて車を盾にするように子供を自身の下にして守るように訓練されている。又、イスラエルの道路でも軍の指示に従って敵のミサイル攻撃に備えて身を低くする指導が行われている。他にもイスラエルでは、ミサイル防衛システム「アイアンドーム」による迎撃ミサイルで敵ミサイル破壊の結果生じる破片が大きな被害をもたらす可能性がある。死傷者を最小限にする為、定期的な民間防衛の指導・国内インフラの強化の公共工事の二つを防衛政策として重視している。さらに地下の密入国トンネルによる越境してきた敵への突発的な攻撃への対策について教えられている

## ③ リトアニア

ウクライナ問題をうけて、2015年にリトアニアは潜在的な敵への直接の武力闘争だけでなく、他の抵抗方法も選択できるように民間防衛に関するパンフレットを発行した。

## ④ イギリス

第2次世界大戦では戦略爆撃などで民間人の被害も大きく、民間人も動員して救護活動を行うことが一般化した。英国政府は第2次世界大戦終結後に従来 of 民間防衛体制に、新しい空襲対策を盛り込む調査研究を行う事にいた。その期間を確保するため現行の民間防衛法を一時的に停止し、1954年、補足として軍隊の構成員が民間防衛で指導をすることを義務付けた。更に1986年には平時市民保護法が制定され、交付金により地方自治体が外国勢力の攻撃以外の緊急事態・災害でも救済のために自治体を動員できるようにした。2004年にはテロ・ミサイル攻撃・自然災害・伝染病など、多様な緊急事態を目的とした民間緊急事態法が制定されている。

## ⑤ 日本

大戦中までは民間防衛の考え方はなく、民間防衛組織として警防団などが存在した。日本本土空襲が現実化すると大規模な疎開が行われたが、沖縄戦やソ連対日参戦による諸戦闘では組織立った民間人の事前疎開などが十分に実施できず、地上戦闘に巻き込まれ犠牲者が多く発生した。

戦後は、武力攻撃事態等における国民の保護に関する法律は、武力攻撃等を受けた際に国民の生命・財産を保護することを目的とし2004年成立し、通称・国民保護法という。当該法律内ではそうした表現は用いられていないが、民間防衛を規定するものである。日本はジュネーブ条約追加議定書I及びIIを批准し、諸外国における民間防衛のシステムを参考に作成している。この法律は、武力攻撃事態や緊急対処事態などに際して住民の避難・救援に必要な場合、一定の範囲で私権を制限すること、例えば私有地の一時提供、医薬品や食料の保管指示、交通規制などに従わなかった場合罰則が科されることがある。しかし、この法律に関して国のアピールもなければ国民としての認識もないが、これはあまりにも日本的すぎるのではあるまいか。

#### 4. 参考までに・・・スイス国軍の戦いと歴史

##### ① 第二次大戦、スイスの将軍アンリ・ギザン

スイスは1848年から国際紛争において中立を保ってきたが、その中立の基礎はスイス国内の兵役制度と多数の予備役、そして険しい地形にあった。それでも中立の維持に十分とは言えなかったので1938年ドイツがオーストリアを併合すると、スイス議会は国民に「最後の血の一滴まで搾り出し」国防に備えるよう公式に声明した。そして1939年8月、スイス議会は、戦争状態もしくは国家的危機の場合にしか任命されない将軍にアンリー・ギザンを任命した。



カモフラージュされた軍事施設

1939年9月、ドイツがポーランドに侵攻した翌日、すなわちイギリスとフランスがドイツに宣戦布告する1日前ギザンは総動員命令を発し、陸軍をスイス総人口の10%に430,000名まで増員した。そして更に1940年5月、ドイツがヨーロッパ西部に侵攻したので、ギザンは二度目の総動員令を発令した。アレン・ダレス(当時OSSスイス支局長)によれば、1943年の時点でスイス陸軍の総数は総人口の二割、850,000に膨れ上がった。この人数は中立状態にある国家にとっては経済的、人的負担だったが、同じように中立を宣言していたオランダやベルギーがドイツに占領された事実を鑑みれば、軍事的用意は不可避であった。ギザンの防衛計画は、国境における遅延作戦、さらに内陸部の防衛拠点および都市で停滞作戦を行い、更に敗れた場合は山岳部に立てこもりゲリラ戦を行うことだった。又、スイス軍部隊にラジオなどで降伏命令が通達されても、それは敵のプロパガンダであるから降伏してはいけないと命令していた。スイスは降伏しないのである。

ゲッペルスとヒトラーはしばしば演説や書面の中で、スイス人を「もっとも卑しむべき下劣な国民、新ドイツの敵」と酷評し、「ドイツはスイスを滅ぼす」と脅していた。1939年時点でスイス国内には200,000人のユダヤ人が住み、第二次大戦の終わりまでにその数字はヨーロッパ諸国からの亡命で400,000人になっていた。スイスはこれ以外に非ユダヤ人亡命者100,000人を受け入れていた。更にスイスは戦略的に重要な位置にあり、連合軍諜報部はスイスを拠点にヨーロッパ諸国に出入りしていたからである。

ドイツ軍最初のスイス侵略作戦は1940年秋に予定され、12個師団が投入されるはずだった。ヒトラーのこの計画は、東部戦線にこれらの師団が必要であると主張するドイツ陸軍将軍達から強く反対され、仮にスイスを占領したとしても、大量の占領軍をスイス国内に残さなければならなかった。

スイスは防衛努力に加え、もう一つの決意がドイツに侵略をためらわせた。ドイツに攻められ占領されそうになれば、スイス軍は重要なトンネルを自ら爆破する、というのです。スイス占領のメリットは交通路として使うためなので、トンネル爆破は占領目的の根幹に関わる大問題です。これを受けてスイス占領を計画していたドイツ軍はメリットはないと判断したのです。そして作戦は延期されソビエトに勝利した後にスイスを占領することになった。しかし、1943年になってドイツ軍の敗色が濃くなり、ロシアと地中海からの



長距離機関砲？

の撤退を余技なくされると、ヒトラーとドイツ陸軍は防衛の観点からスイス侵攻を検討するようになった。チュニジアが失われた場合、連合軍はシシリー島に上陸し、次いでイタリア半島に上陸するであろうから、スイスを支配下に置いておけば増援や撤退が容易になり、空軍もスイス領上空を自由に通過できるのである。これまでも連合空軍、枢軸空軍ともにスイス領空を頻繁に侵犯していたが、遂にスイス空軍も侵入機を撃墜する方針に決めて、11機のドイツ空

軍機がスイス空軍に撃墜される事件が起きた。この時ヒトラーは報復を考えていたが成功しなかった。

1943年3月、再度スイス侵攻作戦がヒトラー幕僚に届けられた。だが軍上層部はスイスとの戦争に消

極的で、ヒムラーもドイツが負け戦になった場合、スイス経由で連合軍と和平交渉するプランを持っていたのである。そこでヒムラーはスイス侵攻作戦を1943年秋まで行わないようヒトラーに進言した。ヒムラーは子飼いのヴァルター・シェレンベルク(第6局対外諜報部長)にスイスとの調停を依頼し、スイス秘密警察のRoger Massonを通じてギザンと交渉している。シェレンベルクはドイツはスイス侵攻の意図がまったくないことを強調し、スイスに連合軍と枢軸軍双方に対して中立であることを求めた。しかし、シェレンベルクの交渉はあまり成功しなかったようである。1943年夏、イタリアが連合軍に降伏すると、ドイツ兵が南部戦線を守るためスイス領内の移動が予想されたので、ギザンは議会に再度総動員令の発令を求めた。しかし、議会はこれを拒否した。その時スイスにはこれを行うだけの力が残ってなかったのである。



アンリ・ギザン

結果的にギザン将軍の戦争抑止計画は成功した。しかし、その為にスイス国民が支払った犠牲も大きかったのである。当時、ドイツ国民一人当たり支給される糧食が280kカロリーであったのに対し、スイス国民のそれは200kカロリーしかなかったのだ。ギザンは1945年8月、自分の任務は完了したとして将軍の地位から降り、1960年4月、祖国が平和と自由のもとに繁栄していることを見届けながら、ギザンは天寿を全うした。

結果的にギザン将軍の戦争抑止計画は成功した。しかし、その為にスイス国民が支払った犠牲も大きかったのである。当時、ドイツ国民一人当たり支給される糧食が280kカロリーであったのに対し、スイス国民のそれは200kカロリーしかなかったのだ。ギザンは1945年8月、自分の任務は完了したとして将軍の地位から降り、1960年4月、祖国が平和と自由のもとに繁栄していることを見届けながら、ギザンは天寿を全うした。

\* アンリ・ギザン(Henri Guisan、1874年10月21日 - 1960年4月8日)は、フランス系プロテスタントの医師の家に生まれ、幼くして母を亡くし父親の愛情を受けて育った。やがてローザンヌ大学に進学したものの、進路に迷った末にフランスやドイツに農業技術の研究のために留学した。やがて兵役に就いたことをきっかけに、軍の仕事に興味を持って職業軍人に転じ、主に砲兵として活躍、第一次世界大戦の頃には陸軍中央学校の教官、あるいは軍の作戦司令部の参謀として、近代戦の研究に励んだ。1932年には軍団長大佐(平時のスイスでは大佐が最上位)兼国家国防委員会委員となり、実質上の武官のトップの地位に就いた。1939年8月、ナチス・ドイツとポーランドの関係が急速に悪化して戦争が避けられない情勢となると、少数派のフランス系住民出身ではあるが、実績と信頼のあるギザンを軍の最高司令官に選出し臨戦態勢を整えた。ギザンはドイツ軍あるいは連合軍がスイスに侵攻してきた場合には、山間部を走る国境の交通網を全面的に破壊した上、平野部を放棄してアルプス山脈に要塞を築いて徹底抗戦する計画を立案した。スイス国内は“ハリネズミ”と評されるほどの大防衛体制が取られた。

\* 平和を守るのは、随分とお金がかかるものなのです。ましてや日本の場合は隣国が中国と韓国ですから、軍事力ゼロであれば尖閣諸島など即奪われるでしょう。このヒコーキの写真を見るとスイスは予算がない中、必死で頑張っている感じがするが、日本人はどう…?

## ② スイス空軍の領空防衛

1939年9月、アンリ・ギザンは総動員令を発した。陸軍航空隊にパイロット隊が編成され、航空機工場も設置された。こうしてスイスでも航空戦力が整い始めたが、ギザンが最高司令官に就任した時点になっても質・量ともに整ってなかった。スイス・ドルニエ社はドイツの練習機やモランソルニエのMs406戦闘機のライセンス生産をした。一方のドボアチン社はD520戦闘機を開発し量産はスイス国営のEK



モランソルニエMe406

W社が行った。これらの他にフォッカー社からEKWのC-35多用途機が第二次大戦勃発時のスイス空軍にはあったが、最新鋭の戦闘機が足りなかった。そこでドイツにMe109を発注し、大戦が拡大する直前にBf109Dと新型Eの合わせて90機がスイスに届けられた。軍用機の燃料や重工業の操業に欠かせない金属材や石炭などの戦略物資を、スイスは主にドイツから購入しているのだ。

第2次世界大戦でイタリアが参戦すると、その支援のためドイツ空軍機がしばしばスイス上空を通過した。またイギリス空軍は英本土から北イタリア工業地帯への爆撃を行う最短コースであるスイス領空を侵犯した。1940年冬に連合軍からチューリッヒ、バーゼルが爆撃を受けた。英国はこれを「誤爆」と釈明した。ギザン将軍は当初はその度に厳重な抗議をしていたが聞き入れられなかったため、その後は領空侵犯機を撃墜する方針で臨むことにした。そして約500機の戦闘機と高射砲5

連隊などを整備し、戦争全期間を通じて7,379回の空襲警報に対し、枢軸国側の撃墜64機、連合国側190機の戦果を挙げた。そしてスイス側の損害は推定200機、死傷者344人に及んだ。航空隊のスクランブル発進以外に高射砲部隊も火力を有効に発揮して航空隊を支援した。アメリカ軍機だけで166機がスイス領内に入って事故で墜落・不時着し、終戦まで抑留する運命になった。被撃墜以外で墜落



Me109

した領空侵犯機は52機、不時着機は177機に上る。第2次世界大戦中の連合国軍によるスイスへの爆撃は70回前後に上り、84人の死亡者が出た。これらの爆撃は航法ミスによるものとされているが、ナチスドイツに協力したスイスに対する連合国軍からの警告だと指摘する歴史家もいる。戦後、連合国側は爆撃による被害の補償金を支払っている。墜落や不時着でスイスに留まった搭乗員たちは、終戦まで捕虜収容所で過ごすことになった。彼らは取り調べと検疫検査を受けた後、将校たちは戦時中に全く予約の入らなかったダヴォスのホテルへ、その他の兵士はアデルボーデンやヴェンゲンに送られた

た。墜落した爆撃機のうち修理して飛べる物およそ120機が、スイス人操縦士によってチューリヒ近郊のデューベンドルフ軍用飛行場に誘導され終戦まで保管された。その後、英国から米陸軍航空軍の整備士が来て修理・点検し、操縦士によって英国に戻され解体されたと言う。

注： これを見ると連合国機を多く撃墜しているが、中立を守る事の困難さを示している。この時スイスは周囲を枢軸国に囲まれており、食料日等全ての輸出入品の全てを、彼ら経由でないと何も出来なかったのである。この点を考えるとスイスが生き残るためには、決して連合国側で無い事を示さねばならなかったのだ。連合国寄りと見られたら、即、ドイツから攻撃されたかもしれないので、実に苦しい判断なのだ。戦後スイスは枢軸国寄り等と様々に非難されたが、スイスが生き残るために決断したことに他国がとやかく言う資格はない。

ここでスイス政府観光局が公表しているレポートを、ほぼ全文掲載するのでお読み戴きたい。

### ③ スイス国民と第二次世界大戦

スイスのドイツ語とフランス語のラジオ放送は、国内だけでなく占領下にあったヨーロッパ諸国でも聴かれ、世論の形成に大きな影響を与えました。スイスの新聞はドイツ語新聞も含めて、そのほとんどが連合国側に同調しました。多くの宗教団体やその他の団体が、ナチス・ドイツと占領国から逃れて来た人々に支援の手を差し伸べました。難民支援で最も有名なスイス人のひとりに、3000人もユダヤ難民に滞在許可証を発行してスイス入国を助けた、ザンクト・ガレン警察署長のポール・グリューニンガーがいます。グリューニンガーは当局の禁止令にもかかわらず滞在許可証を発行し続けたため、逮捕され、停職処分に付されました。再審無罪の判決が下され名誉が回復されたのは、死後20年以上たった1995年のことでした。

国民の大半は社会主義的ナショナリズムに反対していました。最も重要な親ナチス党であった国民前線の黨員数は、1939年時点でわずか2300人でした。同党は1940年に禁止されました。このように反ナチスの傾向が強かったとは言え、難民らは諸手を上げて受け入れられたわけではありませんでした。

困難な経済情勢の下でスイスの人々は、外国から労働力が流入してくることを好まなかったからです。難民政策 ハーグ条約によると、交戦国の兵士が何らかの理由により中立国に逃れた場合、この兵士は拘留されなければなりません。自由に動き回るのは認められていなかったわけです。そのため、これらの兵士はほとんどの場合、兵役に就いて国境警備に当たっていたスイス人男性の代わりに、農場や工場で労働力として用いられました。大戦中にスイスに逃げ込んだ兵士の数は合計10万人を超えます。最初にスイスにやって来たのは、1940年6月にフランスがドイツ軍に侵攻された後に、逃げ込んできたフランス軍とポーランド軍の兵士でした。このほかに、逃亡してきた戦争捕虜や脱走兵、負傷者らがスイスに逃げ込みました。ナチス政権成立後、1933年秋までにユダヤ人と知識人を中心に約2000人がドイツからスイスに亡命しました。その数は1938年末時点で既に1万人に上りました。スイスは全部で18万人以上の市民難民を受け入れました。そのうちスイスで療養生活を送ったのは大人5万5018人と子ども5万9885人。6万6549人は短期間の滞在後に帰国しました。これらの難民は当時「国境難民」と呼ばれました。1942年にドイツがフランスのユダヤ人を強制収容所に送り始めた頃、スイスは国境閉

鎖を宣言しました。この決定には国中から抗議の声が上がり、政府は措置の緩和を余儀なくされ、病人、妊婦、65歳以上の老人、子どもを追い返すことはできませんでした。

\* 労働運動の方向性は1920～30年代に徐々に変化しました。階級闘争という考え方は放棄され、農民と中流階級との協力が推進されました。もう一つの進歩は、兵役手当が導入されたことです。第一次世界大戦の時と異なり、第二次世界大戦に動員された男たちには手当が支払われました。これが現在の社会保障制度の基礎となりました。

第二次世界大戦中の経済1907年のハーグ条約は、武器の輸出入も含めて、中立国が交戦国と自由に貿易することを認めていました。大戦前、ドイツは既にスイスの主要な貿易相手国のひとつでした。

スイスの対独輸出は1933～1944年に大きく増加しました。他方、連合国との貿易は、対独貿易のわずか3分の1程度に過ぎませんでした。1940年から1942年の期間中、スイスからの輸出の45%は枢軸国であるドイツとイタリアに向けられました。これら2カ国に輸出されたのは機械、鉄鋼、機器、車両、化学製品など、少なくとも部分的に戦争に用いることができるものばかりでした。スイスはドイツから輸入もしていました。輸入されたのは石炭、石油製品、工業材料、食料品など、ドイツ自身も必要としていたものでした。各交戦国はスイスと他の交戦国との貿易について了解していました。

1944年に最初のアメリカ軍兵士がスイス国境に到着し、連合国との関係が改善された後、スイスはドイツとの貿易活動を縮小しました。しかし、ドイツとイタリアが相手国にスイス経由で非軍事物資を送ることは、引き続き許可しました。スイスは中立な金融センターとして、連合国と枢軸国の両方と取引を続けました。両陣営から、例えば金を購入しました。

\* 現代の視点

第二次世界大戦中にスイスが公式にとった行動には、いくつもの暗い影がつきまっています。スイスが多くのユダヤ人難民の入国を拒否したことは、特に批判的になっています。スイスはまた、ナチスがユダヤ人から没収した金を購入したことも責められています。戦中にスイスに預けられた預金を、戦後になって自発的に遺族に返還しなかったことも批判されています。さらに、ドイツに軍備を供給することによって戦争を長引かせたという批判にも晒されています。

20世紀末になって、歴史家フランソワ・ベルジェを委員長とする委員会が、これらの批判を検証する試みを行いました。ベルジェ委員会は2002年に発表した報告書の中で、スイスは数千人ものユダヤ人の入国を拒んだだけでなく、その一部を直接ドイツに引き渡していたと結論づけました。その上、数百万フランもの預金が、相続人の不存在を理由に国庫に納められたという批判が事実であったことが認められました。ベルジェ委員会によって相続人不存在の預金問題が扱われるまで、この種の議論は極めて表面的なものにとどまっていた。この報告書は、大戦中のスイスについて異なった分析をするための重要なツールとなっています。

## 5. スイスから学ぶべき事

スイス連邦は1848年以来カントンと呼ばれる州(独立州的)による連邦共和制をとってきた。その元は1291年、ウーリ、シュヴィーツ、ウンターヴァルデンの3つの州の代表者たちは集まって対ハプスブルク家自治独立を維持するための永久盟約を結んだ事がスイス連邦の原型である。このシュヴィーツ州という地名こそが「スイス」の語源となっていくのである。であるから、スイス連邦の原型がつけられたのは700年前のことなので、現存する世界最古の共和国であるということが出来る。1847年、スイスのカトリック諸州とプロテスタント諸州の緊張状態が紛争に発展した。そして内戦の結果、1848年に連邦制度が採択され、各州の代表からなる連邦議会が防衛、通商、憲法に関する事項を扱い、それ以外は全て各カントンに委ねられた。このとき出来たスイス連邦の基本的な枠組みは現代まで維持されている。その為、スイスは各州、各個人の意志が強く、多少のことでは言う事を聞かないが、最終的には国としてのまとまりを見せ、ヨーロッパの中でも特に、国、個人として意志強固である。

これらを元として、スイスの中立はギザン将軍の巧みな戦略と国民の一致団結により、長く苦しい戦いに奇跡的に成功した希有な事例と言える。1972年から1986年までスイスの閣僚であったクルト・フルクラーは「スイスの中立主義は、中立を目的としているのではなく、スイスの自由、国家の独立を維持するための手段にすぎないのです」と語った。中立が決して平和を保証してくれるわけではないことは、幾多の中立国が簡単に侵略されたことでも明らかである。中立を宣言したからと言ってまもられるわけではなく、他国がスイスを尊重するから中立でいられるのです。そのためスイスは中立国を侵略するメリットより

も、戦いが高くつくことをいかに思い知らせる必要があったのです。第2次大戦当時、交戦国同士で直接交渉する必要も出てきた場合、スイスにドイツとアメリカは大使館を置いているので、そこを通じて交渉することが出来たのです。その為、枢軸側にとっても占領して得る利益よりも、スイスが中立でいることで得られる利益の方が遥かに大きかったのです。北朝鮮や中国の領海侵犯に悩まされている我が国にとって、我が国は安易に非武装中立を説いたり、防衛を米国任せにするのではなく、過去のスイスから学ぶべき教訓なのです。しかしながら、スイス空軍では今も第2次大戦直後に作られたバンパイヤや、世界で最も美しいジェット戦闘機と言われたホーカーハンターが現役で飛んでいるのは素晴らしい事です。ぜひこれらの飛行を見たいものである。

\* 陸軍:動員時36万3800人。総軍コマンド(全部隊は予備役扱い):コマンド直轄部隊:機甲旅団×2個、歩兵連隊×2個、砲兵連隊×1個、空港連隊×1個、工兵連隊×2個。野戦軍団×3個:各、師団×2個(歩兵連隊×3個、砲兵連隊×1個)、地域管区師団×1個(連隊×5~6個)、機甲旅団×1個、砲兵連隊×1個、工兵連隊×1個、自転車連隊×1個、要塞連隊×1個。山岳軍団×1個:山岳師団×3個(各歩兵連隊×3個、砲兵連隊×1個)、要塞旅団×3個、山岳歩兵連隊×2個、要塞連隊×2個、工兵連隊×1個、地域管区師団×1個(連隊×6個)、地域管区旅団×2個。

【装備】 主力戦車:Panzer.87 スイス軍仕様。1983年35輛、1987年 345 輛をライセンス生産。Pz Hb 88/95 558 輛。M63 / 73 歩兵戦闘車192輛。M63 / 89 歩兵戦闘車 315 輛。M113 装甲兵員輸送車 836 輛。モワクピラーニャ装甲車 615輛。TOW対戦車ミサイル搭載型310輛、イーグル偵察車 329 輛。アルエット III 60 機、軽汎用ヘリコプター。スカウト/レジャー無人機、アクエリアス級哨戒ボート 11 隻、105 mm牽引砲 35 型:216 門、46 型:341 門、L118 105mm榴弾砲、20 mm高射機関砲 1700 門、ドラゴン(対戦車ミサイル) 2700 基。PzF84 パンツァーファースト 3 対戦車ロケットランチャー 83 mm、106 mm

無反動砲1万 3800 門。50 / 57 型 90 mm対戦車砲 850 門。120 mm 重迫撃砲 M87:402 門、M64(M113):132 門。81 mm迫撃砲 M33:275 0 門、B/L-84 レイピア地対空ミサイル 56 基、Lmg05 ミニミ軽機関銃。SIG SG510 自動小銃、SIG SG550 自動小銃、SG550 自動小銃のコンパクトモデル。

\* 航空軍団:動員時3万 2500 人、作戦機× 153 機、年間平均飛行時間: 150 ~ 200 時間、

【装備】スイス空軍 F/A-18 ホーネット、F-18C 26 機、F-18D 7 機。F-5E/F 36 機。

ペルピューマ輸送ヘリ 332M,532UL。ピラタスPC-9 標的曳航機、ピラタスPC-6/B17機、連絡機。リアジェット 35A 2機、連絡機。ドルニエ Do 27 3機、連絡機。ホークMk 66 20 機、高等練習機、

2003 年から順次退役。ピラタス PC-7 38 機、初等練習機。ピラタスPC-9 12 機。練習機。ピラタス P C-21 6 機、高等練習機。ホークMk 66 の後継機。

参考資料:物語スイスの歴史、スイス・歴史から現代へ、スイス、ベネルクス史、傭兵の2千年史、『ミリタリーバランス 1995-96』『軍事研究』1997 年3月号、『軍事研究』1997.3、国際派日本人養成講座平成 1 1.7 「史探訪: スイス孤高の戦い」、ロペスの合戦部屋「その他の国の第2次世界大戦(スイス)」、スイス政府観光局・第2次世界大戦、リアリズムと防衛ブログ・「中立国の戦い スイス、スウェーデン、スペインの苦難の道」、第2次世界大戦のスイス、ウィキペディアから非武装中立、武装中立、民間防衛、スイス軍、swissinfo.ch-第2次世界大戦中 スイスに墜落した爆撃機、DNA-永世中立国スイスの美しい景色にカモフラージュされた軍事施設の写真いろいろ、コトバンクスイス史、

## ざつがき

⑨

### ① スロバキア発の空飛ぶ自動車が市販目前 AeroMobil(フランクフルトモーターショー 2017)



9月にドイツで開催したフランクフルトモーターショーで、世界各国のメーカーが様々なモデルを発表・展示する中、スロバキアの企業はなんと空飛ぶ車を出展した。

しかも発売時期ももう決まっているという。メーカーの名前は「AeroMobil」。東欧スロバキアの企業だ。展示された車両(機体)も社名と同じく『AeroMobil』。飛行機と自動車が融合したような姿で、陸上では普通の自動車として走行し、飛行モードになる際には車体後方に搭載された翼がまるで昆虫の羽のように広がり、滑走して離陸することが可能。飛行モードへの切り替えは3分以内に完了するという。サイズは自動車モードで長さ約 5900mm

m、幅約 2200mm、高さ約 1500mm。飛行モードでは長さ約 5800mm、幅約 8800mm、高さ約 1400mmになる。車体には2リットルエンジンが搭載されているが、自動車モードの走行では電気モーターを使って前輪を回転させる仕組み。この場合エンジンは発電のみに利用される。一方飛行モードではエンジンによってプロペラを回転させて飛行する。自動車モードの最高速度は 160km/h、飛行モードでは 360km/h。なお、離陸には約 600mの滑走が必要となる。すでに飛行実験も行われており2020年のヨーロッパを皮切りに、北米、中国でも発売予定。価格はおよそ150万ユーロを予定。ちなみに運転と操縦にはそれぞれ自動車の免許と飛行機の免許が必要ということだ。

### ② 高齢者用の安全ソフト搭載の軽自動車に乗り換えです。

これまで普通の軽自動車に10年乗っていたが、80才にそなえて各種安全ソフト完備の車に乗り換える事にした。調べて見ると100万円程度で衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ、車線逸脱警報機能、誤発進抑制制御装置(前後方向)、先行車発進お知らせ機能等が装備された車は、今のところ、軽のダイハツのミラ・イースしかない事が解った。この車はハイブリッド車ではないので、エンジン以外の余計な駆動モーターと電池等、積んでないので軽いし安いし、その分燃費も34km/lと立派なものである。そこで今後高齢化に備えて、ミラ・イースに買い換えることを家族に相談したところ大賛成なので安心した。早速、試乗してみると軽の割には走行音も静かだし、パワーもそこそこだし、2人が乗り回すには充分の大きさである。しかもランニングコストも、税金燃費込みで年間4万円以下で治まる。今後は遠くのヒコーキ大会には行かないので遠距離走行もないし、そうなれば大した荷物もは積まないのでも大きさも問題はない。載ってみると信号ストップでエンジンが止まり、ブレーキを外すとエンジンがかかる仕組みで、更にノーサインでの車線変更や、バックでギリギリ壁に寄せたりすると、センサーがピーピーと鳴る等々、これらに慣れる必要がありそうだ。これらは全て安全のための注意喚起情報なので、老人には役に立つはずだ。